

西東京市カルタ 解説文集

あんこの田無 包みの保谷 一緒になって二〇年

西東京市の地勢図を大福に例えると、あんこの部分が旧田無市、あんこを包む皮の部分が旧保谷市に見える。歴史的には、田無が青梅街道の宿場町、保谷が農業中心のまちとして発展してきた。合併の動きは以前から幾度もあったが、平成の大合併の折、二〇〇一（平成一三）年二月二日、ようやく両市が一緒になり、西東京市が誕生。二世紀最初の新設合併（吸収合併ではなく、新しい市を作る）だった。あれから二〇年。そろそろ、美味しい大福になったかな。

命支えた 用水路 いまは暗渠の 遊歩道

田無村は、一七世紀初頭に青梅街道が開設され、人や馬が交替する継場として誕生したが、水利が悪く、飲み水は、毎日谷戸から運んでいた。一七世紀末ようやく開削嘆願書の許可が下り、玉川上水から分水して「田無用水」が作られた。しかし、昭和の高度成長期、人口増に下水道整備が追い付かず、生活排水が流れる悪水路と化した。今は蓋をして暗渠となり、遊歩道「ふれあいのこみち」、「やすらぎのこみち」として生まれ変わった。

美しい 氷上の舞 アイスアリーナ

一九八四（昭和五九）年開業。西武グループが所有。命名権契約により、二〇〇六（平成一八）年からダイドードリンコアイスアリーナとなった。西武新宿線東伏見駅南口すぐ。リンクは、三〇メートル×六〇メートル、スタンドの収容人数は、三五〇〇人。アイスホッケーやフィギュアスケートの大会に使用される。年間を通して一般開放されており、各種スケート教室が開催されている。また、ここを拠点とする「西武ホワイトベアーズ・ジュニアアイスホッケークラブ」（幼稚園児から高校生まで）もある。

笑顔乗せ 今日も走るよ はなバスは

「はなバス」は、西東京市のコミュニティバスの愛称。既存の路線バスではカバーしきれない公共交通空白地域を中心に、市内五路線を運営。旧保谷市で一部運行されていたが、合併を機に二〇〇二(平成一四)年三月から新スタートした。市との協定に基づき、バス事業者(西武バス、関東バス)が運転している。収入が運転にかかる経費に満たない場合には、不足額を市がバス業者に補助金として交付。二〇一四(平成二六)年から、地元小学生による車内アナウンスが始まった。

おっぱいみたいな ガスタンク

東京ガス株式会社のカガシガシ貯蔵タンク。正式名はガスホルダー。西武柳沢駅南口から徒歩五分、青梅街道沿いにある。一九四二(昭和一七)年、中島飛行機など軍需工場等の需要増大を受けて建設され、当時は低圧式タンク(円筒形)であった。戦後、民生需要の急増を受け、一九五五(昭和三〇)年に再建された。一九七二(昭和四六)年、現在の高圧式タンク(球形)となった。西東京、小平、練馬などの日中の都市ガス需要にこたえるため、横浜市根岸のLNG基地から夜中に補充される。

考え学び協働し 市民の居場所 公民館

西東京市には、柳沢(中央館)、保谷駅前、田無、谷戸、芝久保、ひばりが丘(分室)と六つの公民館がある。三多摩地域は、全国的にみても、公民館活動が活発で、西東京市の公民館も多世代が学び合い、交流する場所となっている。近年は、趣味や教養に励むだけでなく、学びをまちづくり等の行動に繋げる場に進化している。ロビーでは、中高生たちは、遅くまで宿題や勉強に取り組んでいる。中高年も三々五々集まり、話し合っている。保育つき講座が各館で行われ、自主サークルでも保育利用できる。

黄色旗 はたためく季節 市民映画祭

こもれびホールの開館を契機に、保谷市の映画好き市民が定期的に映画上映会を開催してきた。二〇〇一(平成一三)年に西東京市が誕生、田無市の映画ファンと合同で、第一回「西東京市民映画祭」を開催、現在まで続く。年数回の上映会に加え、著名な映画監督をゲストに招き、トークショーも実施。二〇〇二(平成一四)年からは、自主制作映画コンペティションも開始した。全国から短編作品を公募、受賞者からプロの監督も生まれ、若手の登竜門となっている。

空襲の歴史を刻む 平和のリング

西東京市とその周辺には、中島飛行機関連等の軍需工場が集積しており、度々空襲された。一九四五（昭和二〇）年四月一二日の被害は、特に大きく、田無駅近くの防空壕で多くの犠牲者が出た。有志により、戦災者慰霊塔（平和観音像）が建立された。が、駅前再開発のため総持寺山門前に移され、その跡に「平和のリング」が作られた。市は、四月一二日を「西東京市平和の日」と定め、戦争体験を風化させず、平和の意義を語り継ぐと、毎年記念行事を行っている。

芸術の香り漂う こもればホール

正式名称は、「保谷こもればホール」。市民の要望もあり、一九九八（平成一〇）年に開館。中町の保谷庁舎敷地内にある。メインホール六六二席、小ホール二五〇席。クラシック、ジャズ、ポップスなどのコンサート、映画、バレエ、演劇、落語、能、狂言といった多彩な催しが行われる。子どもミュージカルや和楽器などのワークショップも実施される。市民文化祭の会場でもある。「西東京フィルハーモニーオーケストラ」は、ホール開館を契機に発足した。

五龍神 西東京市をパトロール

田無神社の創建は、鎌倉時代と伝えられる。谷戸に鎮座し、尉殿大権現と呼ばれていた。江戸幕府を開くにあたり青梅街道が作られ、人々が街道沿いに移住して宿場町を形成したのを契機に、現在の地に遷座された。一八七二（明治五）年に、熊野神社、八幡神社を合祀し、田無神社と社名を改めた。主祭神は、級津彦命、級戸辺命、大国主命。現在は、五行思想に基づき本殿に金龍、境内各所に黒龍、白龍、赤龍、青龍を配祀し五龍神として信仰されている。本殿には、江戸時代の名工嶋村俊表の彫刻が施され、本殿、拜殿とも東京都文化財に指定されている。

里山を 市民が守る 西原自然公園

かつて雑木林は、燃料や堆肥の供給源として、人の手で管理されていたが、時代の変化に伴い、放置されてきた。一九七九（昭和五四）年に開園した西原自然公園は、当初、木がうつそうと生い茂り、入るのが怖いほどだった。二〇〇〇（平成一二）年から、「西原自然公園を育成する会」が市と協働し、本来の雑木林の姿に戻そうと、更新作業を始めた。今では、コナラやクヌギの明るい林に、コゲラやムクドリなどの野鳥が生息し、生態系に合った植物や生物が復活している。

縄文の暮らしを偲ぶ 下野谷遺跡

下野谷遺跡は、今から四〇五千年前の縄文時代に、東伏見の石神井川沿いに形成された集落を主とする遺跡。水と緑に恵まれた豊かな自然の中、千年もの間生活が営まれていた。環状集落が複数存在しており、石神井川流域の拠点であったと考えられている。南関東では、傑出した規模と内容であり、二〇一五（平成二七）年に国史跡に指定された。これまで行われた調査では、当時の生活を偲ぶ縄文土器や石器が発掘されているが、多くは、今も遺跡の地下に眠っている。郷土資料室では、発掘された土器等を含め、西東京市の歴史的遺産を見て学ぶことができる。

滑り台 大人も乗りたい 東伏見公園

都立東伏見公園は、一九四一（昭和一六）年に計画されたが、長期間整備されずにきた。しかし、東日本大震災を経て、防災上の観点からも実現が急がれ、二〇一五（平成二七）年、一部が開園した（三・六ヘクタール）。東伏見駅と西武柳沢駅の中間にあり、東伏見稲荷神社の森や下野谷遺跡、石神井川が隣接し、緑と水に恵まれた立地にある。全長四九メートルの長いローラー滑り台が設置され、人気がある。天気の良い日には、滑り台の後ろに富士山も見える。初日の出をこちらで見ると市民も多い。

全国に ひばりが飛んだ レストラン

「ガスト」、「バーミヤン」などを全国展開する外食産業の雄、株式会社すかいらーくホールディングスは、西東京市にルーツを持つ大企業。一九六二（昭和三七）年、ひばりが丘団地北商店街に乾物を扱うことぶき食品有限会社として創業。その後、時代を先取りし、日本のファミリールレストランの先駆けに。社名は、「ひばり」の英語名から付けられた。このほか、今ではグローバルに事業を展開している光学レンズ・メーカーHOYA株式会社も、一九四一（昭和一六）年、保谷で創業し、それを社名とした。

総持寺の けやきも踊る 盆踊り

谷戸にあった西光寺が十七世紀に青梅街道沿いに移転、一八七五（明治八）年に近隣の二つの寺と合併し、田無山総持寺と改称。一八五〇（嘉永三）年、本堂を建て替えた折に植樹された櫻が大きく育ち、西東京市の文化財に指定されている。田無のお盆の時期（七月末）に、毎年開催される盆踊り大会（田無商業協同組合主催）は、夏の風物詩。先々代の住職が昭和初期に、人々の慰安娯楽とまちの発展のために始めたもので、戦時中にも休まず、今日まで続けられている。

多摩六都 プラネタリウム 世界一

多摩六都科学館は、一九九四（平成六）年に多摩六都（小平、東村山、清瀬、東久留米、保谷と田無の六市）により作られた。地学・生物学・物理学など多様な分野を分かりやすく展示し、地域にまつわる事柄も深く調べ、体験もできる。地元企業や大学などと連携した企画も多い。二〇一二（平成二四）年にプラネタリウムがリニューアルされ、最も多くの星を投射するプラネタリウムとして（一億四〇〇〇万個を超える恒星が投射可能）ギネス世界一に認定された。

直売所 ぶらりと買える 新鮮野菜

西東京市内には、新鮮な野菜や果物、花などを畑や軒先で販売する、個人直売所が五五カ所あり、市民は季節の野菜、旬のものやを直接購入できる。散歩がてら購入する人、お目当ての野菜をめぐって出かける人、さまざまである。有人の場合もあるが、無人のことも多い。無人でも、皆きちんとお金を支払う。早朝収穫したものが並べられ、人気の野菜は、午前中に売り切れるほど。このほか、共同直売所が三ヶ所（農業協同組合二ヶ所、東伏見ふれあいプラザ直売会）ある。

つぎつぎと 工場消えて マンションに

西東京市には、戦時中の軍需、戦後の経済成長を担った多くの工場があったが、社会変化や産業構造の転換により、特に平成に入り、撤退・縮小が続いた。主なものに、柳沢の朝比奈機械が一九九六（平成八）年、東芝機械に吸収合併され、すぐに土地が売却された。谷戸の日特金属工業は、一九八二（昭和五七）年、住友重機械工業に吸収合併され、二〇〇四（平成一六）年所有地を一部売却。芝久保の三共は、二〇〇二（平成一四）年工場を閉鎖。向台の石川島播磨重工業は、二〇〇七（平成一九）年工場閉鎖。いずれも跡地は、大型マンションとなり、まちなかの姿が大きく変貌した。

天神社 秋の夜空に 花火咲く

北町にある天神社は、かつては日蓮宗の法華神道に基づく三十番神として下保谷地域の信仰を集めていた。しかし、一八六八（明治元）年、神仏分離令および法華三十番神禁止令が発令されたため、境内に祀られていた菅原道真を祭神とし、社号を天神社に改めた。拜殿は、一八三四（天保五）年の建築と推定される木造建築で、鏝絵が美しく、二〇一七（平成二九）年、市の文化財に指定された。毎年一〇月半ばに実施される例大祭は、地元の風物詩となっている。三十番神神像は、福泉寺に移された。その神像も、一九九一（平成三）年に、市の文化財に指定された。

東大農場 都会に残る 緑と大空

「東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構」が正式名称。住民には、「東大農場」の名で親しまれている。一九二九（昭和四）年に演習林が、一九三五（昭和一〇）年に農場が創設された。両方で三〇ヘクタールを超える。田無駅北口から北に徒歩八分。正門を抜けると、畑、水田、温室、ハス見本園などがあり、大空が広がる。旧牛舎を活用した農場博物館もある。日時によるが見学可能。公開講座、農産物販売なども実施されている。都道保谷東村山線がキャンパスを南北に分断し、南部分は売却される。このため、今後風景が、変貌すると思われる。

なつとう公園 ちびっ子たちの 秘密基地

西東京市には、小さな公園がたくさんある。西武柳沢駅北口から徒歩五分のところにある公園は、子どもたちから「なつとう公園」と呼ばれている。正式名は「保谷第二公園」だが、近くに株式会社保谷納豆の工場があったからだ。滑り台、ブランコと遊具は少ないが、子どもたちにとっては、学校から自宅に帰るまでの大切な居場所。保谷納豆の工場は、一九七五（昭和五〇）年、東村山市に移転し、今では、本社登記しかないが、公園の愛称は、続いている。

西東京市 ホボホボ東京 真ん中へん

西東京市は、合併により出来た東京都のなかで一番新しい市である。このため、知名度が低い。またその名称から、東京都の外れと思われるがちである。しかし、練馬区のすぐ西隣であり、諸島を除いた東京都のほぼ真ん中辺りに位置する。新宿、池袋の副都心から急行電車で約二〇分と利便性も高い。

濡れるのも かまわず子らが 水遊び

総合体育館、向台運動場、向台市民グラウンドに隣接する公園は、園内にあるタコの形をした滑り台に人気があり、「タコ公園」の名で親しまれている。夏期には、水の流れや「ジャブジャブ池」が設けられ、子供たちが水遊びに興じている。正式名称は「田無市民公園」。西東京市が夏に水遊びができるようにしている公園には、このほか「いこいの森公園」の噴水がある。また、「谷戸せせらぎ公園」では、小川が流れており、いつでも水遊びができる。

猫たちが 早朝会議 新町阿波洲

享保の改革の一環として、江戸幕府は、一七二二(享保七)年に武蔵野の新田開発を命じ、現在の**新町**を含む上保谷新田が開発された。新町にある阿波洲神社は、上保谷新田の鎮守神として、一七五二(宝暦二)年に粟嶋明神として勧請された。明治に現在の神社名になった。紀伊の国(和歌山)の淡島明神を総社とし、安産や妊娠、婦人病治療など女性に霊験のある神とされている。また、農耕神の少彦名命を祀っている。奉納された絵馬二枚が市の文化財に指定されている。

ノーベル賞 生まれた場所が いこいの森に

「西東京いこいの森公園」は、二〇〇五(平成一七)年に合併事業のひとつとして整備された。谷戸小学校から西へ一〇〇メートルほど入った東大農場北側に位置する市内最大規模の市立公園。市民の散策、スポーツ、レクリエーションの場として親しまれている。ここは、かつて東京大学原子核研究所(通称核研)があった場所で、ここでの研究が基礎となつて、後に小柴昌俊氏、梶田隆明氏らのノーベル物理学賞受賞につながった。公園内には原子核研究所址碑がある。

初詣 大賑わいの 東伏見

日頃は、乗降客数も少なく閑静な住宅街であるが、正月には初詣客で賑わう。東伏見駅南口には、氷川神社があり、少し下ったところに東伏見稲荷神社がある。もともとこの地域では、榛名大権現を祀っていたが、明治末の神社合祀令による混乱を乗り切るために、一九四二(昭和一七)年に、埼玉県にあった氷川神社を移し、榛名大権現をその末社とした。東伏見稲荷神社は、関東にも是非にとの要請で、京都の伏見稲荷大社から分祀、勧請され、一九二九(昭和四)年に創建された。合わせて駅名も、上保谷から東伏見に変更された。

日々願う みんなの健康 しゃきしゃき体操

西東京市しゃきしゃき体操は、足の筋力や全身の柔軟性、バランス能力の向上を目的に、市歌「大好きです、西東京」に合わせて行う、市のオリジナル健康体操。椅子を使用するパート1には、座つて行う「座位バージョン」と、つかまつて行う「いすバージョン」がある。パート2は、パート1より強度が高く、「おとなバージョン」と「こどもバージョン」とがあり、場所を選ばずどこでもできることが特徴。運動会で子どもたちが披露する学校もある。

不思議だね 屋根に公園 あらやしき

西武池袋線保谷駅北口ロータリーをまっすぐ北へ二〇〇メートルほどの左側に位置する公園。公園は、一段上がったところにあり、下は駐輪場（正式名…自転車駐輪場）になっている。園内の中央には、大きな円形の芝生があり、周辺より高いので眺めが良い。砂場や花壇も楽しめる。スパイラル滑り台付きの複合遊具が子どもたちに人気。四月後半から五月には、集められた鯉のぼりが気持ち良く泳ぐ姿がみられる（荒屋敷自治会主催）。秋には、保谷北口商店会主催による秋祭りも。

碧山の 夏を彩る カブトムシ

市の東部中央（中町三丁目）に位置し、市道に面した平坦な雑木林と、これに隣接する農地からなる区域で、一九九三（平成五）年、東京都の緑地保全地域に指定された。碧山森緑地保全地域と呼ばれる。広さ約一万三〇〇〇平方メートル。良好な自然を保ち、次代へと引き継いでいくことを目的としている。主な樹林は、コナラやクヌギで、カブトムシが多い。このため、夏休みに昆虫採集する子どもたちが押し寄せる。

ほっこりと 銭湯につかって 語り合い

銭湯（一般公衆浴場）は、公衆浴場法により、都知事の認可が必要。価格が統制されており、東京都では大人五〇〇円（二〇二二・令和四年七月一五日）と低価格である。銭湯は、家庭風呂の普及に伴い減少してきたが、西東京市内には、三軒残っている。ゆパウザひばり（谷戸）、みどり湯（ひばりが丘）、庚申湯（芝久保）。ゆパウザを除き、定番の富士山の背景画がある。サウナ、ジャグジー、薬湯など多様な風呂を味わえ、端午の節句に菖蒲湯、冬至に柚子湯も実施される。残念ながら、松の湯（南町）が二〇二一年七月に閉店してしまった。

まちのラジオは エフエム西東京

株式会社エフエム西東京は、周波数八四・二メガヘルツ、西東京市とその周辺地域を放送区域として、超短波放送（FM放送）をする特定地上基幹放送事業者。一九九八（平成一〇）年に開局。地域に密着した情報を提供するコミュニティ放送で、「エフエム西東京」の愛称で親しまれている。FM放送は、送信出力が弱いため、聞き取れない場合がある。このため、特に災害時に情報格差が生じないよう、インターネットでも聴取できる工夫がなされてきた。

みんなの安全 タヌキが見守る 北原交差点

田無は、青梅街道の継場として発展し、交通の要衝であったが、モーターゼーションにより、交通事故も増えた。特に、北原交差点は、新青梅街道と所沢街道が交差しているほか、複数の交差点が連続しており、交通事故多発地帯となっている。一九九五（平成七）年に、田無地区運行管理者会が交通安全を祈願し、タヌキの置物を設置した。タヌキの置物には、八相延喜（笠・悪事災難から身を守る準備、大きな目・周囲を見渡し正しい判断など）が表現されており、それにあやかって安全を願った。

武蔵野の面影残す 屋敷林

屋敷林は、防風・防埃・防火など自然災害や火事から屋敷を守る、薪や炭などを作る、母屋・作業小屋・農作業に必要な道具類などの資材にする、果物・タケノコなどの食糧を得る、落ち葉を肥料にするなど、武蔵野で暮らしてきた人々の生活の知恵が詰まっている。市内には、二〇〜三〇の屋敷林があるといわれるものの、減少傾向にある。このため、西東京市は、二〇二二（平成二四）年に、下保谷の屋敷林を特別緑地保全地区に指定、現在は、市が所有し、ボランティアと共に管理にあたっている。

名作を 次々生み出す アニメタウン

西武池袋線から中央線にかけては、アニメの企画・制作会社が集まっており、西東京市もその一つ。市内には、「ドラえもん」、「クレヨンしんちゃん」のシンエイ動画株式会社や「だるまさんシリーズ」、「キャラ丸くんとドク丸くん」の株式会社エクアラニマルなど、アニメの企画・制作会社が十数か所ある。一九六〇年代に「オバケのQ太郎」、「巨人の星」等のヒット作を制作したAプロダクションが一九七六（昭和五一）年にシンエイ動画に改組し、拠点をそれまでの代々木から、田無に移したのがきっかけ。

餅を焼く 保二小あげての どんど焼き

「どんど焼き」とは、小正月（一月十五日）に行われる火祭り。地域によりさまざまな呼び名がある。神社などの広場に櫓を組み、正月飾りを各戸から集めて焼く。この煙によってお正月様は帰ると考えられた。どんど焼きの火は、神聖なものと考えられ、餅や団子などを焼いて食べれば無病息災で暮らせると言われる。西東京市では、保谷第二小学校、明保中学校、上向台小学校、保谷小学校、けやき小学校で実施され、伝統文化の継承につながるのと同時に、地域コミュニティづくりにもなっている。

柳がないのに、どーして 柳沢

柳沢という地名は、現在では、西武柳沢駅南口から武蔵野大学近くの千川沿いまでを指し、一丁目から六丁目までである。「沢」から類推される千川もしくは石神井川に沿って、柳の木が多かったのではないかと想像されるが、現在は見当たらない。二〇〇八(平成十八)年頃までは川桐橋近くにあった数本の柳も、一本が病で倒れた後、全て伐採された。しかし、青梅街道の宿場町として栄えた田無について、田無村柳沢宿とも呼ばれていたようであり、江戸時代には、柳沢という地名は確立していたと思われる。絵札は、柳がないので、六角地蔵石幢と桜を描いている。

夕暮れに 天気知らせる 田無タワー

正式名は「スカイタワー西東京」。無線需要の拡大を受け、田無ファミリーランド、東京都、田無市(現・西東京市)の出資で株式会社田無タワーが設立され、一九八九(平成元)年に建てられた。鉄塔の高さは、地上一九五メートル。主に、防災行政無線、タクシー無線、FM放送に使われている。翌日午前中の天気を晴(紫)、曇り(緑)、雨(青)のライトアップで知らせる。このほか、クリスマス(赤・緑)、正月(金)、世界糖尿デー(ブルー)、乳がん月間(ピンク)、児童虐待防止月間(オレンジ)などに、特別なライトアップが行われる。二〇二二年二月から、出資者は、株式会社小泉、東京都、西東京市に。

四〇〇年 墓守している ヤブツバキ

東禅寺は、住吉町にある曹洞宗の寺、山号は祥高山、本尊は釈迦如来。十六世紀に創建されたとみられる。寺を開基したと伝えられる保谷出雲守直政が埋葬されたと言われ、子孫の墓も多い。この地域の台(基礎)といえる寺。樹齢四〇〇年のヤブツバキが樹立しており、墓を守ってきたかのようだ。西東京市の木五〇選に選ばれている。二〇一七(平成二九)年の台風で被害を受けたが、踏ん張っている。一八六〇(万延元)年に檀家信徒たちが建立した七体地藏立像があり、市の指定文化財となっている。如意輪寺、寶晃院、寶樹院に当寺を合わせ保谷四軒寺とよばれる。

ランニング 散歩も楽しい 多摩湖自転車歩行者道

自転車歩行者専用道路。一般道との交差点には、車止めが設置されている。起点は、西東京市新町で、そこから東村山市までを直線に貫く水道導水路上(一〇・七キロメートル)と首都圏の水がめである多摩湖(村山貯水池)のほぼ全周(一一・二キロメートル)にわたっている。樹木も豊かで花壇も多く、四季を通じて景色を楽しめる。犬の散歩、ジョギング、サイクリングはもちろん、ベンチで寛ぐ人などで賑わっている。上向台小学校南側の「馬の背」は、豊かな草原環境が残され、日本古来の動植物を観察できる。

凜とした 夜空に響く 除夜の鐘

如意輪寺は、泉町にある真言宗智山派の寺、光明山福生院と号す。一八九二（明治二五）年の火災により多くが消失したが、一七七六（安永五）年建立の観音堂は、焼失を免れた。観音堂では、古くから村のまつり日（三月一日）に馬駈け市が開催されていた。その模様を描いた縦一四cm、横一八一cmの馬駈け市大絵馬が一八八四（明治一七）年に奉納され、市の指定文化財となっている。如意輪寺では、大晦日に、誰でも除夜の鐘を撞くことができる。

ルンロンと 逸品巡り 楽しいな

西東京商工会では、二〇二二（平成二四）年度から、西東京市と協力し、モノやサービスなど個店独自の「逸品」を確立しようと、一店逸品事業を開始。二〇二二年度には、食品関係（加工食品販売・飲食業）の逸品を認定し、二〇二三（平成二五）年度には、市内の物品販売業・サービス業・製造業・ものづくり業などの商店・事業所を対象に認定した。以降、毎年更新している。シンボルマークを決め、冊子、ホームページ、SNSなどを活用してPRしている。

歴史ある 建物残る ひばりが丘団地

一九五九（昭和三四）年、保谷、田無、久留米三町にまたがる区域に、日本住宅公団（現・都市再生機構）が造成。住宅戸数二七一四戸、野球場、テニスコート、緑地公園、名店街、スーパーなどを敷地内に擁し、マンモス団地の先駆け。老朽化で建て替えられ、二〇二二（平成二四）年に終了した。スターハウス（Y字型で全てが角部屋）一棟と一九六〇（昭和三五）年に当時の皇太子ご夫妻が視察した部屋のベランダが残されている。また、テラスハウス一棟が地域交流施設として、四階建てフラットハウス一棟がサービス付高齢者向け住宅として、改修・活用されている。

六角の 地蔵が見守る 西東京

市内には、西原町の「石幢六角地蔵尊」一七七九（安永八）年建立と保谷町の「六角地蔵石幢」一七九五（寛政七）年建立の二つの六角地蔵がある。旅人の平安と交通の安全を祈るとともに、道しるべとされた。前者は、かつては、南沢道・前沢道・所沢道・小川道・保谷道・江戸道と六又に分かれている場所に位置し、各方面一休ずつ地蔵尊と道路名を刻んでいた。後者は、富士街道と深大寺道とが交差する地点に立っている。

若人よ 続け世界の アスリート

ぶんりだいこうえん
文理台公園は、かつて東京文理科大学（現・筑波大学）の運動場
で、「暁の超特急」と呼ばれた陸上選手、吉岡隆徳の練習場。
東伏見には、かつて早稲田大学のプールがあり、一九六〇（昭和
三五）年ローマ五輪自由形銀メダルの山中毅選手も、ここで練習
していた。西東京市市民栄誉賞第一号である野球の井口資仁選手
は、西東京市の少年野球チーム出身。卓球の森蘭美咲・政崇姉
弟選手、トランポリンの棟朝銀河選手、体操の宮川紗江選手等々、
市内で生まれ育った選手の活躍も素晴らしい。

この故郷を より良くするのは わたしたち

にしとうきょうし
西東京市を住みやすく、魅力的なまちにしていくなのは、ほかでも
ない。私たちがです。子どもたちが大きくなり、世界に飛び出して
いっても、「ああ、懐かしい故郷だ」と思い、戻って来てくれるよ
うなまちにしたいものです。私たちの日々の積み重ねが、そう
したまちの歴史を作っていきます。西東京市には、カルタでは、
取り上げきれないほどの良いところ、名所旧跡、優れた企業
があります。これらを大切にしながら、より良いまちにしてい
きたいものです。

製作 西東京市カルタ製作委員会

小池早登美、徳丸由利子、富沢木実、中村晋也
(連絡先：〇四二一四六二一九五一 富沢)

pba01177@nifty.com

第一刷 二〇二〇年四月
第二刷 二〇二二年九月

「西東京市カルタ」製作、第一刷にあたっては、社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会の「地域福祉活動に対する助成金」を受けています。

西東京市カルタ製作の経緯

二〇一七(平成二九)年一〇月三十一日、フェイスブック上で「西東京のカルタを作ろう」というページを作成、呼びかけたところ、多くの方が参加してくれた(メンバー現在二七人)。読札がほとんど投稿され(投稿者三一名)、同じ題材のものも多かったため、急遽、編集委員会を設け、読札を整理した。その後、絵札も多くの市民に描いてもらうこととし、小学生から高齢者まで、多くの方に投稿して頂いた(絵札作成者十八人)。このため、多種多様な絵札になっている。

投稿者(敬称略)

読札 安倍寛子、有賀達郎、アトリエ水晶、板橋正二、大貫伸樹、甲斐聖子、影山賢二、清重紗英、佐藤達也、北澤敏、小池早登美、櫻井優里子、嶋崎泰正、鈴木卓久、出ツ所克典、徳丸由利子、とみさわこのみ、なかむらしんや、富沢木実、中村晋也、納田さおり、兵頭はりねずみ、廣田あきこ、星野美津子、丸山修、松崎博、松本涉、丸山美佐恵、三好きよの、やまさきあきら、やまさきしげゆき、よこやままり、わたなべたかひと、希世乃、山崎明、山崎重之、横山真理、渡辺隆人

編集会議 大貫伸樹(当初)、小池早登美、徳丸由利子、富沢木実、中村晋也(編集会議で地域のバランスを考え、頭文字を「あい

えお」に合わせ四五枚にまとめたため、投稿者の出したテーマが使われなかったケースもある。また、投稿者の元の案と最終的な読札が異なっている場合もある。投稿者の皆さまが、この点につきご理解下さったことに感謝します。

絵札 アトリエ水晶、大貫伸樹、北澤敏、小林愛真、古林美香、佐藤うらら、佐藤亮二、篠原なおみ、鈴木卓久、滝島俊、竹内きよたか、とみさわこのみ、なかむらしんや、ふじ清隆、富沢木実、中村晋也、藤まなみ、藤田律、藤田月、星由佳、よこやままり、横山真理